

青少年育成推進員（以下、推進員）の任期は1期2年、第8期の初年度に当たり、青少年育成推進員連絡協議会（以下、協議会）会長として3期目を迎える織田会長と新任役員の方々に、抱負をうかがいました。

## コロナウイルスに 打ち勝とう

会長 織田 俊美



新年度の総会は、新型コロナウイルスの蔓延により、文書で行いましたが、推進員各位のご理解をいただき、大きな問題も無く終えることができました。

その後、東京都に次いで、神奈川県でも感染者が増加し、誰もが感染に注意しながらの自粛生活を余儀なくされました。

「私たちの活動は不要不急なのではないか」と自問自答し、自分たちの存在意義を考えながら5、6月と対策を練り、7月から役員

会（リーダー含む）を行える環境を整えました。

この役員会の開催に当たっては、手やイス・机の消毒、マスクの着用、換気、ソーシャルディスタンスの確保はもちろん、大声を控え、体調不良の場合は欠席する、場合によっては検温を実施することも取り決めました。

その間、各中学校区でも、どのように対策し、活動していくのか試行錯誤が続いたと聞いていますが、あらゆる活動の自粛・中止が大勢となりました。

GoTo トラベルが始まった頃からの第2波でクラスターが発生し、若者が感染源だ、夜の街が発生源だと、他に責任転嫁するような風評が蔓延。差別、偏見、誹謗中傷など、ある意味コロナウイルスより恐ろしい状況になりつつあります。

With コロナ、ニューノーマルなど、新しい生活をするうえで心の構えがメディアから発信されています。ワクチンが開発され、行き届く状態になるまでは、コロナを恐れず生活を維持することを考えていく必要があります。

一人一人が、自分はコロナの陽性者であるという考えに立ち、周りの人に感染を広げないよう配慮する気

配りや行動が大切になってくるのではないのでしょうか。私たち推進員の活動は、多くの子どもたちと関わることが多いので、中止とする状態が続いています。しかし、いつまでも中止という訳にはいきません。どのような対策を立て、どのような心構えを持てば開催できるのか、知恵を出し合いコロナウイルスに打ち勝たなければなりません。

現在は第3波が発生している大変厳しい状況ではありますが、推進員各位におかれましては、推進員の存在意義（役割、必要性、価値、重要性）を考えて活動してくださいませよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。

## かつてない状況の中で

副会長 岩田 照美



副会長を務めます、田浦中学校区の岩田です。これまで私は、子どもた

ちが安全に安心して生活ができるよう、地域や学校と連携をとり、活動してまいりました。しかし、今年度はコロナウイルスの影響で、ほとんどの活動が中止になりました。

学校は休校になり、多くの行事が制限された状況の中で、どのように繋がりをもつていくべきか。それぞれの中学校区も相当考えられたことと思います。徐々に緩和されてはきましたが、活動を始めるにはまだまだ注意の必要なこの時期にこそ、新企画の発掘、既存の活動の熟成など、この先いつ活動が再開されてもすぐに対応できるよう、準備しておくことが大切だと思います。

## 新たなる活動体制へ

監査 菅原 宏治



このたび監査を拝命しました、公郷中学校区の菅原宏治です。

推薦委員会からお話をいただいたときは、遂行力に不安を感じましたが、ご推薦くださったことを有難く思い、お受けすることになりました。

私が推進員になったのは、中学校PTA会長を退任した年に、町内会役員が声をかけてくださったのが始まりです。PTA役員時代には、推進員はもちろん、町内会・学校関係者の協力を得て活動できたことに感謝しており、お受けし、今年で早や13年目となりました。この間、PTA役員を始め、協議会を通じて多くの人たちに巡り合うことができたことを、大変有意義に感じております。

子どもたちは、大人の背中を見ています。まずは大人同士が良い関係を構築していることを、子どもたちを感じさせ、安心感を与えることが肝要と思います。

本年度は、コロナ禍で活動が制限されていますが、このような時こそ、協議会を通じ、各方面団体と一層の連帯強化を図り、将来の宝物である子どもたちに、厳しくとも温かい眼差しを持って寄り添っていきたいと思っております。今後とも、よろしく願います。

ABOUT US

「青少年育成推進員」(以下、推進員)は、横須賀市独自の制度です。連合町内会長が推薦し、横須賀市長が委嘱します。また、県の青少年指導員も兼ねてい...

任期は1期2年となっており、令和2年4月1日から令和4年3月31日の今期は、第8期に当たります。中学校区ごとに、町内会、自治会や青少年関係団体、学校などと連携して、青少年の健全育成活動や非行防...

育成研究部会
環境研究部会
広報研究部会
未曽有のコロナ禍、協議会、研究部会の活動状況をご紹介します。

新任者研修会に 寄せて

推進員は、任期ごとに3分の1、半数程、新任者に入れ替わります。そこで各期の初年度には、これまで、新任の推進員を対象とした新任者研修が、集合研修形式で行われてきました。



☆野比・佐藤 竜也

「自分に務めることができるのだろうか?」というのが率直な感想です。「青少年指導員」と「青少年相談員」が統合されて「青少年育成推進員」制度が発足したという話や、横須賀市長から「青少年育成

ACTIVITY

横須賀市青少年育成推進員・連絡協議会

コロナに打ち勝て 研究部会活動

育成研究部会 部会長・木藤 ひろみ

活動の目的は「青少年の健全育成、新たな体験や気づきの場を提供すること」。これまで部会一丸となり...

環境研究部会 部会長・大倉 俊明

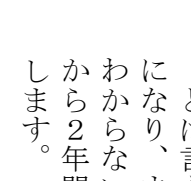
今年度より部会長を務める、大倉と申します。皆さんのご支援をいただき、責務を全うできるよう、がんばりたいと思います。

☆岩戸・飯田 功

広報研究部会の役割、内容など、詳しく説明してくださり、良く理解できました。何より皆さんが明るく、風通しの良い部会と感じました。

☆野比・名田 隆志

初めての広報研究部会は、出席が19名、部会員総数の3分の2くらいの参加でした。仕事で参加できない方もいるのでしよう。そのためか、自分も含め、年齢がいつていると感じました。



昨年年度までは11ヶ所でキャンペーンを行っていましたが、今年度は横須賀中央駅と汐入駅周辺の2ヶ所のみとし、さらに環境研究部会員だけで実施することにしました。

また、ソーシャルディスタンスを守るため、チラシの手渡しを止めてポスター掲示のみとし、発声も代表者がスピーカーを使って行うことにしました。

当初は人が集まることに危険を感じていましたが「新しい生活様式」を具体的にイメージし、安全にキャンペーンを行うことができました。今後も、コロナ禍でもできる活動を考えていきたいと思っています。

パネル展示

「子供・若者育成支援強調月間」に合わせて、毎年11月には、市役所北口掲示板に、各中学校区の紹介パネルを展示しています。しかし今年度は、新型コロナウイルスの影響で、紹介する内容が無い状況でした。そこで今年度は、昨年中学

生に描いてもらった非行防止キャンペーンのポスターを、展示することに決めました。それぞれ個性のあるポスターは、反響も良かったと感じています。



この非行防止キャンペーンのポスターは、今後、各中学校区のイベントで活用してもらえようようにしたいと考えています。

夜間パトロール・夏

8月20日(木)、役員会終了後、夜間パトロールを実施しました。



で、少しでもお役に立てれば良いなと思いました。

☆久里浜・下平 美奈

経験豊富なベテランの方々がいらしたので、とても安心しました。講師の井上副会長の説明も分かりやすく、新任者のことを気遣ってくださっていると感じました。

コロナ禍でイベント進行が難しい時ですが、広報研究部会の方々と、楽しんで活動していきたいと思えます。

☆武山・緒方 一康

新任者研修を実施してくださり、ありがとうございます。プロジェクトを使用しながらありますが、活動の概要が、ある程度把握できたように思います。

とは言え、初めて推進員になり、まだまだ右も左もわからない状態です。これから2年間よろしくお願ひします。





**横須賀中央駅 Yデッキ周辺**

参加21名（推進員19名、その他2名）

この時期にしては暖かく、快晴の中15時にスタート。リーダーの早坂さんによれば、コロナ禍の開催に賛否が分かれたけれど、今年度、何もできないのは寂しいとの意見を入れ、しっかりと対策したうえで開催することにしたとのこと。

その対策内容は、生徒は不参加とする、ティッシュ、チラシの手渡しはしない、のぼり、ポスターの掲示と、拡声器による呼びかけのみとする、拡声器使用者はフェイ

**非行防止 キャンペーン**

11月14日（土）

例年『青少年の非行・被害防止全国強調月間』（7月）、「子供・若者育成支援強調月間」（11月）に合わせて行っている活動です。



スシールドをする参加者の健康チェック、検温を行うなど。



「昨年度は、多くの生徒を中心に、三ヶ所に分かれて、声をかけながらティッシュやチラシを配り、足を



代読された市長の言葉「誰も一人にさせない街に！」が印象的でした。来年は、生徒たちと一緒に、元気に声をかけながら行えば良いと思います。（岩戸・飯田 功／大楠・根岸 一康）



市長の挨拶状が市の職員によって読みあげられた後、約30分のキャンペーンでしたが、700人ほどの往来がありました。活動が難しい

**汐入駅 横須賀芸術劇場周辺**

参加15名（推進員14名、その他1名）

芸術劇場前からコースカへ向かう歩道橋の階段下で、非行防止キャンペーンを実施しました。

中学生が描いた非行防止キャンペーンのポスターの前で、揃いのベストを着用して、のぼり旗を手に横一列に並び、呼びかけを行いました。コロナウイルス感染防止のための、フェイスマスクを着けての呼びかけは、いつも以上に声量が必要でした。



（公郷・宮川 功）



**夜間パトロール・冬**

12月22日（火）、役員会終了後、夜間パトロールを実施しました。



**『オンライン会議 初体験』**

北下浦中学校区 当中学校区では、これまで市民プラザを利用して、定例会を行っていました。しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、集まること自体が難しくなりました。そこで5月12日（火）に、初のオンライン会議を開催しました（ツールはLINEを使用しました）。

事前に「19時からやるので準備よろしく」との連絡を受け、少々緊張気味にスマホを握って待ち構えました。

時間になると、スマホの画面にみんなの顔が一斉に現れ、今期の活動についてどうするかという議題で、話し合いが行われました。初めてのことで、画面が固まったり、突然メン

バーが消えたりのアキシデントはありましたが、すごく画期的だなと思いました。

その後6月16日（火）にも、文書総会に向けて資料や準備分などの取り決めをするのに、オンライン会議を活用することができました。（北下浦・本田 智子）



**講演会 『志（こころざし） 教育とは』**

田浦中学校区 10月26日（月）19時20時、一般社団法人志教育プロジェクト公認講師の高橋美智子氏を田浦コミュニティセンターにお招きし、ご講演いただきました。

	冷静	情熱
合理的	智	勇
情緒的	親	愛

志教育プロジェクトでは、この「四魂の窓」を講師育成・青少年指導などに応用しているそうです。また、志を発表し合う「世界青少年「志」プレゼンテーション

**副題 「与えられた学びから 意志ある学びへ」**

① あなたは冷静ですか、情熱的ですか？  
② あなたは合理的ですか、情緒的ですか？

という二つの質問から、個性に影響を与える四つの魂「智・冷静で合理的」「勇・情熱的で合理的」「親・冷静で情緒的」「愛・情熱的で情緒的」のうち、最も強い魂を知ることで個性の核を認識し、その他の魂も含めて自在に制御することを目指す「四魂の窓」。

**令和2年度受賞 「神奈川県 青少年育成活動 推進者表彰」**

公郷中学校区 菅原 宏治

この度、掲題の表彰を受けました。菅原宏治です。

「夢」と「志」の違いは何でしょうか？目指す夢は私事であり、志とは人生で何をやるべきかを自覚し、それを公共のために実行する決意をいいます。「四魂の窓」を学ぶことにより、自分の志がより明確になり、相手の本当の想いを見抜くことができるようになって本質的なコミュニケーションをとることが可能になり、志を共有する関係の構築法を掴むことができるようになります。

ご講演くださった講師の「志」は、全ての人が命を輝かせて笑顔で生きる為に志教育を世界中に広め地球を救うこと。貴重な教員生活の体験談と、子どもたちと教育に対する熱い志を、ありがとうございました。（田浦・鈴木 茂）



私は、公郷中学校PTA会長を退任した年に推進員をお受けし、現在にいたっています。その間、中学校区のメンバーならびに協議会を通じてめぐり合った多くの人たちと活動できたことが、今回の受賞につながっていると、感謝しています。

青少年育成活動は、義務感ではなく楽しむことが肝要であり、私たちが楽しみながら活動することで、子どもたちも楽しく参加してくれると思っています。

今年度は、新型コロナウイルスに翻弄され、活動が制限されていますが、各団体と連携を取りつつ、Withコロナでも、ともに活動できるよう、関係強化を図って行きたいと思っています。

私自身、今回の受賞を糧に、今後も60歳プラス数年間活動をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

## 神奈川県青少年指導員連絡協議会 青少年指導員表彰・受賞者の喜びの声

### 北下浦中学校区 小幡 玲子

推進員として青少年育成に携わってきて、このほど横須賀地区の推薦を受け、県の青少年指導員表彰に決定したと通知を受けました。これまで、そうめん流し、サマーコンサート、小学校PTA行事でのブース参加など、推進員の仲間と一緒に、子どもたちの笑顔に触れながら、イベントを行ってきました。

協議会では、広報紙を作り上げて沢山のひとふれあり(広報研究会にて)、非行防止キャンペーン・社会環境実態調査・わんぱくフエスティバルでのポスター展示など(環境研究会にて)を行ってきました。他の中学校区の推進員と関わることができ、とても楽しく活動できました。

しかし今年は、コロナ禍で緊急事態となり、日頃の活動ができなくなりました。とても悲しいことですが、イベントも何もできない状態でした。

それでも、オンライン会議などコロナ対応しながら

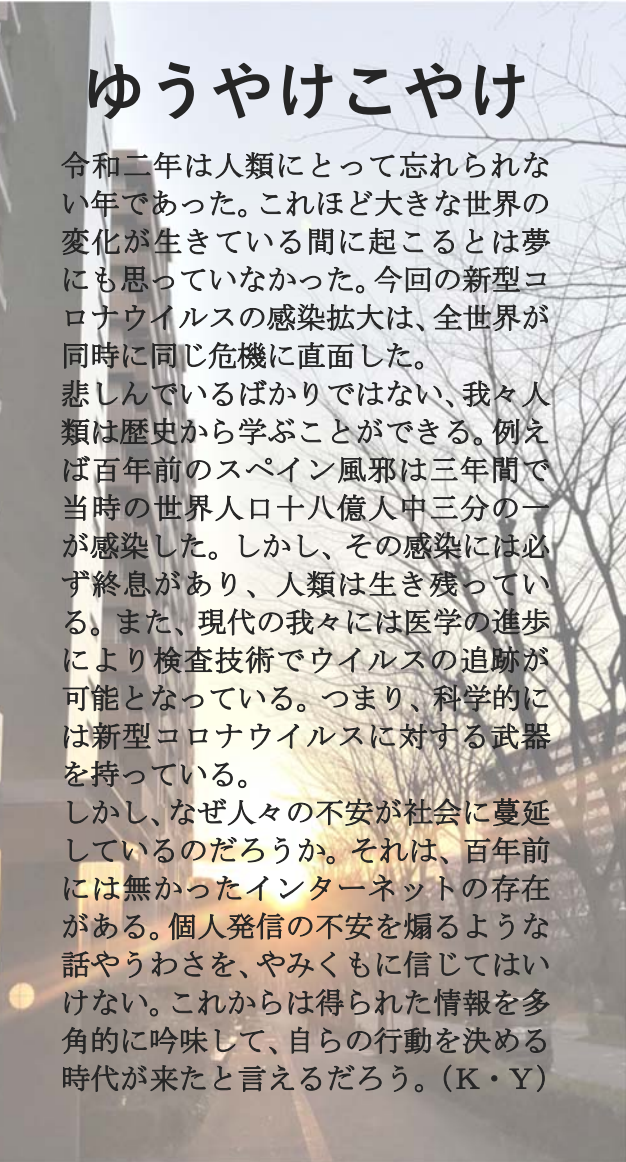
「未来ある子どもたちの笑顔のため」に、推進員の仲間と一緒に、イベントができる希望を持ちながら、これからできる限り、中学校区や協議会の活動をサポートしたいと思っています。令和2年度中に授与式は行われませんが、みなさんと一緒に受賞したと思いいと思います。ありがとうございました。

### 武山中学校区 市川 仁

私の中学校区には中学生のボランティア団体BMS(Blue Mates Staff)があり、平成15年ころから15年以上活動しています。このBMSの歩みが、そのまま私の推進員としての歴史です。

推進員をお引き受けしたとき、いきなりリーダーで、補導員も兼任していました。当時私を推薦した先輩は、すでに大半が「知らぬが仏」(合掌)ですが、この活動を通して、横須賀および地元武山を再発見させていたできました。

わんぱくフエスティバル



## ゆうやけこやけ

令和二年は人類にとって忘れられない年であった。これほど大きな世界の変化が生きている間に起こるとは夢にも思っていなかった。今回の新型コロナウイルスの感染拡大は、全世界が同時に同じ危機に直面した。

悲しんでいるばかりではない、我々人類は歴史から学ぶことができる。例えば百年前のスペイン風邪は三年間で当時の世界人口十八億人中三分之一が感染した。しかし、その感染には必ず終息があり、人類は生き残っている。また、現代の我々には医学の進歩により検査技術でウイルスの追跡が可能となっている。つまり、科学的には新型コロナウイルスに対する武器を持っている。

しかし、なぜ人々の不安が社会に蔓延しているのだろうか。それは、百年前には無かったインターネットの存在がある。個人発信の不安を煽るような話やうわさを、やみくもに信じてはいけけない。これからは得られた情報を多角的に吟味して、自らの行動を決める時代が来たと言えるだろう。(K・Y)



や中学校対抗ウォークラリーは、学校や先生の主催ではなく、教科書に載っているわけでもありませんが、横須賀をより深く知るという意味で、学校の「勉強」以上だと思っています。

「学校だけが学校じゃない、教科書だけが教科書じゃない、先生だけが先生じゃない!!」

### 編集後記

コロナ禍で、イベントがごとく中止に。記事はあるのか？そんな心配をしていたのに、蓋を開けてみれば記事は盛りだくさん。創刊以来、初めての合併号、そして増ページ。

記事が集まり、いざ校正を始めたら、今度は非常事態宣言。集まることができなくなり、初めてのリモート編集会議。

初めてづくしの広報紙だったが、楽しんで作れたのではないかと思う。

新型コロナウイルス感染が終息し、安心して生活できる日が早く来ることを願いつつ、あの時はこんなだった



### 広報

たと懐かしく思える日がくるように。(S・Y)